

科目名	コンピュータシステム I A							
科目名(英)								
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	北島 仁宇、松嶋 貴志			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	システムエンジニアとして従事 コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジ系の基礎となる情報の基礎理論やハードウェア・ソフトウェア等に関する知識を学ぶ。 初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					ハードウェアソフトウェア分野の用語について説明できる		
	○					ストレージ/マネジメント分野の用語について説明できる		
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる		
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキスト I【ベーステクノロジー編】(TAG) 基本情報技術者午前問題集(インフォテックサーブ) IPA午前免除試験過去問題集(麻生塾)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-2	基数(2進数・8進数・16進数)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	3	プロジェクト統合マネジメント、プロジェクトスコープマネジメント、プロジェクトタイムマネジメント						
	4-5	基数、負数、小数表現				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	6	プロジェクトコストマネジメント、プロジェクトリスクマネジメント						
	7-8	基数、負数、小数、その他データ表現				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9	確認テスト、サービスマネジメント、サービス運用とサービス移行				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	10-11	集合						
	12	サービス戦略とサービス設計、サービスマネジメント構築						
	13-14	論理回路						
	15	経営戦略の基礎知識、経営戦略手法、マーケティング						
	16-17	確率、統計						
	18	エンジニアリングシステム、eビジネス						
	19-20	プロセッサ						
	21	確認テスト、経営・組織論、IEとOR				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	22-23	記憶装置						
	24	品質管理の技法、その他の分析・図解技法						
	25-26	コンピュータシステム				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	27	財務会計、原価償却とリース、損益分岐点						
	28-29	システムの性能評価						
	30	知的財産権、労働関連・取引関連法規						
	31-32	タスク管理						
	33	標準化組織と規格、データの標準化						
	34-35	記憶管理						
	36	確認テスト、情報システム戦略、ソリューションビジネス、要件定義、調達計画				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	37-45	総復習(問題集)						
	評価方法	(1)授業の中で確認テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				50%
		確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
		受講状況				◎		10%
履修上の注意								

科目名	コンピュータシステムⅡA							
科目名(英)								
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	小淵 洋子・染矢 裕美子 後藤 基介・高倉 美哉			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務 コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務 コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務 コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となるデータベースおよび開発分野に関する知識を学ぶ。 基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。							
授業形式	講義： <input type="radio"/>	演習： <input type="checkbox"/>	実習： <input type="checkbox"/>	実技： <input type="checkbox"/>	※ 主たる方法： <input type="radio"/> その他： <input type="triangle"/>			
学習目標 (到達目標)	目標							
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	データベースおよびシステム開発分野の用語について説明できる			
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SQL文を理解し、記述されたSQL文の正しい実行結果を予測・選択できる			
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	データベース設計の手順を応用し、システム要件に則った設計を行うことができる			
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ネットワークやセキュリティに関する用語、LANに関するネットワークデバイスについて説明できる			
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	公開鍵基盤で使われている技術、不正侵入技術とその防御策について説明できる			
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】(TAC) 基本情報技術者午前問題集(インフォテックサーブ) IPA午前免除試験過去問題集(麻生塾)							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1-2	データベースの導入、データベースの演算						
	3	ネットワークの基礎						
	4-5	正規化						
	6	伝送制御、ネットワークアーキテクチャ						
	7-8	演習(データベース設計)、SQL_SELECTの基本			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	9	LAN、LANのアクセス制御						
	10-11	SQL_結合、SQL_整列						
	12	LAN間接続装置						
	13-14	SQL_グループ化、SQL_単一行副問合せ						
	15	WAN、インターネットとTCP/IP			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	16-17	SQL_複数行副問合せ、SQL_データ定義						
	18	IPアドレスとルーティング、IPアドレスの管理						
	19-20	SQL_データ操作、演習(SQL)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	21	TCPとUDP、アプリケーションプロトコル						
	22-23	データベース管理システム、障害回復						
	24	ネットワーク管理			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	25-26	演習(データベース運用)、システム開発モデル			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	27	情報セキュリティマネジメント、リスクアセスメントとリスク対策						
	28-29	開発アプローチ図解技法						
	30	暗号化技術						
	31-32	演習(システム開発図解技法)、ヒューマンインタフェース設計			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	33	デジタル署名とPKI、利用者認証						
	34-35	ソフトウェア方式設計、テスト技法						
	36	インターネットのセキュリティ技術、コンピュータウイルス対策			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	37-38	ソフトウェア開発管理技術、演習(テスト技法、管理技術)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	39	ファイアウォール、不正行為と対策方法						
	40-45	演習(検定問題)						
	評価方法	(1)授業の中で確認テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				50%
		確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%	
履修上の注意								

科目名	コンピュータシステムⅢA						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	川野 啓祐・手嶋 隆之 相原 希久子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野に関する知識を学ぶ。 初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。プログラミングにつながるトレース力も身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				手順書からアルゴリズムの基礎となるフローチャートを書くことができる	
	○	○				基本情報処理技術者試験午後の言語問題および擬似言語問題でトレースができる	
テキスト・教材 参考図書	アルゴリズムとデータ構造(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	アルゴリズムと流れ図					
	4-6	繰り返し処理					
	7-9	集計1					
	10-12	集計2					
	13-15	集計2				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	16-18	配列					
	19-21	配列				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	22-24	擬似言語の基本					
	25-27	擬似言語のデータ構造				授業内容、プリントの復習をおこなうこと	
	28-30	探索処理(線形探索、ブロック探索)					
	31-33	探索処理(二分探索、ハッシュ探索)				授業内容、プリントの復習をおこなうこと	
	34-36	整列法(選択)					
	37-39	整列法(交換、挿入)					
40-42	文字列操作				授業内容、プリントの復習をおこなうこと		
43-45	問題演習						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	コンピュータオペレーション演習A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高倉 美哉		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科・情報システム専攻科・情報システム科 1年						
授業概要	Linuxサーバやネットワークデバイスの操作に必要な、コマンドラインの使い方をWindowsのコマンドプロンプトでの演習を通じて学習し、ディレクトリ作成やファイル操作、システム管理ができるようになる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					GUIでなくCUIでの操作のメリットを説明できる	
	○	○	○			コマンドを使用して、Windowsのディレクトリ作成、ファイル操作ができる	
	○	○	○			コマンドを使用して、Windowsのシステム操作、確認ができる	
テキスト・教材 参考図書	・オリジナル資料(パワーポイント、プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基本操作(UIとは・基本的な操作方法・コマンド入力規則)					
	2	基本操作(環境変数・絶対パスと相対パスの指定方法)					
	3	基本操作(ファイル操作(コピー・削除・移動)・ディレクトリの移動)					
	4	基本操作(ファイル操作(テキストファイル作成・表示・検索))				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5	復習(1) ファイル操作					
	6	基本操作(ファイル操作(ワイルドカード・リダイレクトの練習))					
	7	操作復習(リダイレクト・パイプ)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	復習(2) ファイル操作					
	9	ネットワーク管理(NIC情報表示)					
	10	ネットワーク管理(トラブルシューティングコマンド)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	復習(3) ネットワーク管理					
	12	システム操作(プロセス管理方法)					
	13	システム操作(プロセス管理方法)					
	14	システム操作(プロセス管理方法)					
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト・課題・レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	Webプログラミング演習 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	手嶋 隆之・染矢 裕美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科、情報システム専攻科、情報工学科 1年						
授業概要	実際にプログラムを作成しながら、JavaScriptの基礎を学習する。段階的に複数の課題に取り組むことで、Webプログラムが動作する原理とアルゴリズムを理解する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			JavaScriptの基本的なコードを書くことができる	
		○	○			プログラミングの基本構造を理解し説明できる	
		○	○			Webプログラミングが動作する原理を理解し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	本当によくわかるJavaScriptの教科書(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	Chapter1 JavaScriptとは					
	3-4	Chapter2 JavaScriptの基本 ルール、エラー処理、変数とデータ構造					
	5-6	Chapter2 JavaScriptの基本 計算処理、文字列、配列					
	7-8	Chapter2 JavaScriptの基本 Lessonダイアログボックス、ファイル管理、読みやすいコードの書き方					
	9-10	Chapter3 分岐条件 基本的な構造				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	11-12	Chapter3 分岐条件 比較演算子、複数条件の組み合わせ					
	13-14	Chapter3 分岐条件 論理演算子、switch文					
	15-16	Chapter3 分岐条件 課題作成				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	17-18	Chapter4 繰り返し 基本的な構造、for文					
	19-20	Chapter4 繰り返し 課題作成				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	21-22	Chapter4 繰り返し while文					
	23-24	Chapter4 繰り返し 課題作成				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	25-26	Chapter5 関数 基本的な構造					
27-28	Chapter5 関数 引数・戻り値の設定、有効範囲						
29-30	問題演習						
評価方法	(1)課題作成を数回実施する。(2)授業の中で、確認テストを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				30%
	課題作成		◎	○	○		60%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	一般教養 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。漢字や語句の読み書き、方程式、図形等の基本項目から長文読解までの広範囲な問題演習を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる	
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる	
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	国語:漢字の読み(1・2) 数学:式と計算(1)					
	2	国語:漢字の読み(3)、漢字の書き取り(1) 数学:式と計算(2)					
	3	国語:漢字の書き取り(2)、同音異義語(1) 数学:速さの基礎					
	4	国語:同音異義語(2・3) 数学:旅人算					
	5	国語:同訓音字、語句の意味(1) 数学:通算					
	6	国語:語句の意味(2)、同意語・類似語 数学:流水算				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと	
	7	国語:反対語、中間テスト対策(今まで学習したことの見直し) 数学:中間テスト対策(今まで学習したことの見直し)					
	8	小テスト(国語及び数学)				授業内容に係るテストを実施するので、復習しておくこと	
	9	小テストのフォローアップ 数学:割合の基礎					
	10	国語:四字熟語(1・2) 数学:濃度					
	11	国語:ことわざ(1・2) 数学:損益算					
	12	国語:慣用句・故事成語 数学:順列・確率					
	13	国語:敬語、適語補充 数学:集合					
	14	国語:文章整序、文章読解 数学:推理					
15	総復習						
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	グローバルシティズンベーシック(GCB) I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川野 啓祐・小淵 洋子・手嶋 隆之・高橋 政博・高倉 美哉・北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを説明できる	
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを説明できる	
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう					
	2	「協働」の態度を持った学生生活					
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				グループワークのテーマについて自分の考えをまとめてくること	
	4	マナーの本質 I					
	5	マナーの本質 II					
	6	グローバルシティズンとしての日常					
	7	グローバルシティズンとしての目標				自分の目標をまとめてくること	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意							

科目名	ゼミナール I A								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川野 啓祐、小淵 洋子、手嶋 隆之 高橋 政博、高倉 美哉、北島 仁宇				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報工学科、情報システム専攻科、情報システム科 1年								
授業概要	学校活を送る上での基盤となる力や社会で働く力を育む。								
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
				<input type="radio"/>		人間関係を自主的、実践的により良いものへと形成できる			
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		社会的・職業的自立の意義を理解し説明できる			
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		社会生活を営む上で必要なマナーやルールを理解し説明できる			
テキスト・教材 参考図書	なし								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	クラス内オリエンテーション① …自己紹介、マナーについて				マナーの大切さについてインターネットで調べる			
	2	学習方法 …読解、予習、復習、ノート、プリント整理							
	3	クラス内オリエンテーション② …グループ演習							
	4	学則の理解 …成績評価、規定学生生活規定、履修規定							
	5	教育目標、教育課程の理解							
	6	他人とつながる …言葉が与える「快」、「不快」							
	7	あなたは大人ですか？子供ですか？ …責任ある行動				IT業界の資格試験についてインターネットで調べる			
	8	資格試験の種類と目標設定							
	9	先輩の体験談 …検定試験、定期試験				最近話題になっている世界情勢についてインターネットで調べる			
	10	時事問題 …世界情勢について考える							
	11	趣味と仕事 …将来の仕事について考える				IT業界についてインターネットで調べる			
	12	IT業界の理解① …グループでの調査							
	13	IT業界の理解② …発表、個人レポート作成							
	14	前期授業の振り返り							
15	学則の理解 …定期試験規定								
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題・レポート				<input type="radio"/>		50%		
	受講状況				<input type="radio"/>		50%		
履修上の注意									

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川野 啓祐、小淵 洋子、手嶋 隆之 高橋 政博、高倉 美哉、北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		きちんと声を出して挨拶ができる	
	○			○		効果的な自己PRができる	
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる	
テキスト・教材 参考図書	コミュニケーション技法(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】				コミュニケーションについて、自分なりインターネット や本で調べる	
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】					
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】					
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】					
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】				コミュニケーションの基本について復習を行なう	
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】					
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】					
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】					
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】				プレゼンテーション内容を事前に考える	
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】					
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】					
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】					
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】					
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】					
15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】						
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○			○		50%
	受講状況				○		50%
履修上の注意							

科目名	ビジネスソフトウェア演習 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野 明子/平川 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	Excelを使用して、表を作成(関数等の利用)し、それを基にグラフを作成が使用できる 基本情報技術者試験の表計算問題に出題される関数の使い方を学習する						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			Windowsの基本操作、文字入力ができる	
		○	○			Excelを使って、基本操作(表計算、計算式の設定、グラフ作成)ができる	
		○	○			基本情報技術者試験の表計算問題で使用される関数が理解できる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版) 表計算問題がちゃんと解ける本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Windowsについて、ウィンドウ操作、入力・変換					
	2	入力・変換・IME使用方法、ファイルの管理					
	3	第5章_Excelの基礎知識/第6章_データの入力/第7章_表の作成(書式)					
	4	第7章_表作成(関数)/第8章_グラフ作成					
	5	第9章_データ分析					
	6	Excel 練習問題(総復習)				テキストの第5章～第9章を復習しておくこと。	
	7	Excel 実技試験				練習問題を復習しておくこと。	
	8	表計算問題 CHAPTER1 表計算の基礎					
	9	表計算問題 CHAPTER2 関数①					
	10	表計算問題 CHAPTER2 関数②					
	11	表計算問題 CHAPTER2 関数③					
	12	表計算問題 CHAPTER2 関数④					
	13	表計算問題 CHAPTER2 関数⑤					
	14	表計算問題 復習①				表計算問題 関数の復習をしておくこと。	
15	表計算問題Excel 実技試験						
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)宿題を数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。 (4)授業態度の注意が多い学生に対し減点評価を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験		○	◎			50%
	小テスト		○	◎			20%
	宿題・レポート		○	◎	○		15%
	受講状況				◎		15%
履修上の注意	宿題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または追加宿題を設ける 場合がある。						

科目名	ネットワークセキュリティⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	姫野 マリ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科アドバンスコース 2年						
授業概要	情報セキュリティについて全ての分野の基礎レベルの知識を習得する。知識習得の目安としては以下を目安とする。 ・ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできる ・またそれぞれの項目での問題点と対処方法を簡単に説明できる						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。	
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。	
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	情報セキュリティ技術認定 基礎コース(SEA/J)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 情報セキュリティマネジメント					
	2	第2章 セキュリティ運用					
	3	第3章 インフラセキュリティ				第1章～第3章までの授業内容に係るレポート作成	
	4	第1～3章までの確認テスト				第1章～第3章までの用語テストで間違えた専門用語は覚えなおししておくこと	
	5	第4章 不正アクセス					
	6	第5章 ファイアウォール 第6章 侵入検知					
	7	第7章 アプリケーションセキュリティ				第4章～第7章までの授業内容に係るレポート作成	
	8	第4～7章までの確認テスト				第4章～第7章までの用語テストで間違えた専門用語は覚えなおししておくこと	
	9	第9章 認証					
	10	第12章 暗号(暗号の基礎知識)					
	11	第12章 暗号(共通鍵暗号・公開鍵暗号)					
	12	第13章 電子署名				第9章、第12章、第13章の授業内容に係るレポート作成	
	13	第9～13章までの確認テスト				第9章～第13章までの用語テストで間違えた専門用語は覚えなおししておくこと	
	14	総復習					
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)専門用語テストを数回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)授業態度、出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	用語テスト	◎					10%
	宿題・レポート		◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	システム設計A									
科目名(英)										
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	姫野 マリ・今村 美穂					
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年									
授業概要	システム開発業務やシステムエンジニアの仕事についての調査・研究を行なうとともに、システム設計における基礎レベルの知識を習得する。知識を活用した演習を通じて、各種設計書を読み・書くことができることを目指す。最終的には与えられた要件定義書から画面設計書とデータモデル設計書を作成し、データベースの実装演習を行う。									
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				IT業界におけるシステム設計・開発の仕事について研究・調査し、調査結果を発表できる。				
	○					システム設計の工程と成果物について学習し、設計書に記載する内容と意味を説明できる。				
		○				簡単なシステム要件から業務フロー、画面フロー、画面イメージ、データモデルを作成できる。				
		○				出来上がったプログラムを元に機能やモジュールの構造を理解し、機能仕様書を作成できる。				
		○				システムの要件定義書を読み、画面設計書とデータモデル設計書を作成することができる。				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1-3	データモデリング演習				E-Rモデル図の知識確認テストを行なうので、事前に学習しておくこと				
	4-6	設計基礎演習1(画面設計、テーブル設計)				学んだことを生かして、課題の画面設計書とテーブル設計書を完成させること				
	7-9	設計基礎演習2(業務フロー、画面設計、テーブル設計)								
	10-12	設計基礎演習2(業務フロー、画面設計、テーブル設計)				学んだことを生かして、課題の業務フロー、画面設計書、テーブル設計書を完成させること				
	13-15	設計基礎演習3(業務フロー、画面設計、テーブル設計)								
	16-18	設計基礎演習3(業務フロー、画面設計、テーブル設計)				学んだことを生かして、課題の業務フロー、画面設計書、テーブル設計書を完成させること				
	19-21	IT業界 システム開発の現場を調査・研究・発表する								
	22-24	データベース環境設定								
	25-27	データベース実装演習				E-Rモデル図とテーブル設計書よりテーブル実装の確認テストを行うので、事前に学習しておくこと				
	28-30	設計応用演習(要件定義からの画面・データ・機能の設計)								
	31-33	設計応用演習(要件定義からの画面・データ・機能の設計)				学んだことを生かして、課題の設計書を完成させておくこと				
	34-36	テスト及びバグ報告書作成								
	37-39	機能設計(MVCモデルによるモジュール構成図作成)								
40-42	機能設計(MVCモデルによるモジュール構成図作成)									
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。(3)授業態度、出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	成果物提出	○	◎				60%			
	確認テスト		◎				20%			
	出席状況・授業態度				◎		20%			
履修上の注意	出席が28回(全42回)に満たない場合は単位認定できない。									

科目名	UIデザイン演習A						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	中西 紘子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	Web開発で必要となるHTML・CSSの基礎を習得する。基本的なページを作成するためのタグ、Web開発で重要なフォーム系のタグ、マルチデバイスを考慮したレイアウト、ライブラリを使用し効率的なWebページの作成を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		HTMLで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。	
		○		○		スタイルシートで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。	
		○		○		基本的なWebページを作成することができる。	
		○		○		UIを意識したWebページを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	HTML5 & CSS3レッスンブック(ソシム株式会社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	Webページの構造について、作業環境の構築			2回目開始前までにHTML・CSSを作成できる環境(エディタ)を準備しておくこと		
	3	Webページのレイアウトについて(header・footer)					
	4	色の設定、透過					
	5-6	余白の設定、枠線					
	7	テーブルデザイン			教科書CHAPTER6のテーブルの部分を目を通しておくこと		
	8	フォームの作成			教科書CHAPTER6のフォームの部分を目を通しておくこと		
	9-10	Webフォント・画像の表示			絶対パスと相対パスしゅみを理解しておくこと		
	11	CSSのclassの使用方法					
	12	画像の配置					
	13-14	リンクについて、ナビゲーションメニューの作成					
	15-16	記事一覧ページ・トップページ作成					
	17-18	Bootstrapを使ったレイアウト					
	19-26	制作			必ず制作物のバックアップはとっておくこと		
27	実際のWebページ制作の工程						
評価方法	(1)授業の中で内容に合わせた課題の提出を15回程度実施する。(2)定期試験に代わる最終課題を実施する。(3)出席回数を評価する。(4)授業態度の注意が多い学生に対し、減点評価を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期課題		◎		○		40%
	最終課題		◎		○		40%
	出席				◎		5%
	授業態度				◎		15%
履修上の注意	パソコン、教科書は必ず持参のこと。課題に関しては担当教員が在学時間中に作成途中であっても提出すること。しかし提出されたものが最低基準にも満たさない場合は大幅な減点を行う。 また課題は常にバックアップをとること。データの消失による期限の延期は認めない。						

科目名	アプリケーション開発演習A						
科目名(英)							
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	西野 直幸・姫野 マリ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務		
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科1年 アドバンスコース						
授業概要	JSP/Javaサーブレットによるデータベース連携のWebアプリケーション開発技術を習得する。 開発ツールとしてEclipseを利用する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Webアプリケーションについての用語を説明できる。	
		○				Webアプリケーションのフォルダ構成を理解できる。	
		○				サーブレットを理解して、JSP・DBと連携したWebアプリケーションを作成することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～3	Javaの復習(基本構文)				AZ-Caféを用いた演習課題を終わらせること	
	4～6	HTML基本構文					
	7、8	ここまでの演習				HTMLを使った演習課題を提出すること	
	9～11	Webの仕組み、演習				演習課題を提出すること	
	12～14	JSPの仕組み、演習				演習課題を提出すること	
	15～17	フォームを使った画面遷移、データ受け渡し				確認テストの勉強を行っておくこと	
	18	確認テスト ここまでの内容の確認テスト					
	19～22	サーブレット基礎1:サーブレットの基礎(記述方法、画面遷移)				確認テストの勉強を行っておくこと	
	23	サーブレット基礎1の確認テスト					
	24～26	サーブレット基礎2:データ受け渡し、GET、POSTの違い					
	27～30	サーブレット基礎3:スコープ					
	31～33	サーブレット基礎1、2、3の内容で演習課題				演習課題を提出すること	
	34～37	MVCモデル:演習をやりながらMVCモデルを学ぶ					
	38～41	MVCモデルを用いた総合演習(ログイン、ログアウト)					
	42～44	JDBC1:JDBCの説明					
	45～48	JDBC2:prepareStatementを用いた演習				演習課題を提出すること	
	49～51	JDBC3:DAOパターン					
	52～55	JDBC4:コネクションプール				確認テストの勉強を行っておくこと	
	56	MVCモデル、JDBC部分の確認テスト					
57～67	前期最終課題作成				演習課題を提出すること		
68～70	課題審査、結果発表、予備				演習課題を提出すること		
評価方法	(1)プログラミング課題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)確認テストを3回実施する(4)授業の出席状況・授業態度を考慮する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プログラミング課題		◎				20%
	定期試験	○	◎				40%
	確認テスト	○	◎				20%
出席状況・授業態度				◎		20%	
履修上の注意	出席が47回(全70回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	グローバルシティズンベーシック(GCB) I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川野 啓祐・小淵 洋子・手嶋 隆之・高橋 政博・高倉 美哉・北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム科アドバンスコース・情報システム専攻科・情報システム専攻科アドバンスコース・情報工学科 1年						
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを説明できる	
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを説明できる	
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう					
	2	「協働」の態度を持った学生生活					
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				グループワークのテーマについて自分の考えをまとめてくること	
	4	マナーの本質 I					
	5	マナーの本質 II					
	6	グローバルシティズンとしての日常					
	7	グローバルシティズンとしての目標				自分の目標をまとめてくること	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意							

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	今村 美穂 ・ 西野 直幸		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ・未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを理解することができる。	
		○				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
		○				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
		○				行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生情報ビジネス専門学校 グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート	
	3	自己を知る				振り返りレポート	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる				振り返りレポート	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート	
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポート	
評価方法	(1)レポートを数回実施する (2)授業態度 (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	出席が6回(全8回)に満たない場合、または、レポートがすべて提出されていない場合は単位認定できない。						

科目名	就職実務 I A								
科目名(英)									
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	今村 美穂・西野 直幸				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年								
授業概要	次年度就職に向けて、スムーズな就職活動ができるように前期の準備を行う。 業界研究や職種研究を通じて、将来の働くイメージを具体的に描いていく。 企業研究の方法を知り、受験したい企業を選択する。 履歴書(業界・職種志望理由、自己PR他)を作成する。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					IT業界の特徴を説明できる。			
	○	○				業界と職種の志望理由を述べることができる。			
		○				就職採用試験に提出する履歴書が準備できる。			
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	就職の目的 / 働くこと、社会人基礎力の理解							
	2	業界研究1							
	3	業界研究2							
	4	業界研究3							
	5	業界研究4							
	6	職種研究							
	7	東京研修 事前研究				東京研修で訪問する企業について調べてレポートを作成すること			
	8	東京研修 事後研究				「東京研修の訪問企業」の講義内容についてレポートを作成すること			
	9	業界・職種志望動機まとめ1							
	10	業界・職種志望動機まとめ2				「業界の志望動機」「職種の志望動機」のレポートを作成すること			
	11	企業研究1							
	12	企業研究2							
	13	履歴書作成1							
14	履歴書作成2				「履歴書の下書き」についてのレポートを作成すること				
評価方法	(1)レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	レポート課題	○	◎				80%		
	出席状況・授業態度				◎		20%		
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。								

科目名	一般教養ⅡA									
科目名(英)										
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	畠添 正和					
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年									
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:前期は、計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。⇒ 求めた答えと一致する「選択枝」を選択する。SPIテキスト(非言語分野)の未消化分は、後期に継続して行う。 (2)言語分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。									
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				言語分野・非言語分野の学習で、60%以上理解できていること。(定期試験及び小テスト)。				
		○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。				
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。				
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(5月末に最新版を購入・配布)									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	就職筆記試験について 数学分野(1回目)								
	2	数学分野(2回目)								
	3	SPIテキストの構成・内容の確認、国語1(二語の関係①) テキストの数学1の内容確認・練習問題								
	4	国語2(二語の関係②) 数学分野(3回目)	上期 数学分野の進行順序 数学1. 仕事算 数学1-1. 水槽算 数学2. 鶴亀算 数学2-1. 連立方程式の練習問題 数学 其他1. 濃度算 数学3. 損益算 数学4. 速さ・時間・距離 数学4-1. 通過算 数学4-2. 流水算 数学19. 参考問題 その他2. 年齢算 数学5. 場合の数 数学6. 確率 (数学7~18は、後期に実施します)							
	5	国語3(文法) 数学分野(4回目)								
	6	国語4(語句の意味) 数学分野(5回目)				中間テスト範囲の復習をしておくこと				
	7	中間テスト(数学1. ~ 数学4-2)								
	8	中間テスト 返却&解説 国語5(短文の穴埋め)、数学分野(6回目)				中間テストで間違えた問題の復習をしておくこと				
	9	国語6(文章整序) 数学分野(7回目)								
	10	国語7(空欄補充) 数学分野(8回目)								
	11	国語8(長文読解)、国語9(参考問題) 数学分野(9回目)								
	12	数学分野(10回目)								
	13	数学分野(11回目)				これまで学んだ範囲を復習しておくこと				
	14	数学分野(12回目) 期末テスト対策				期末テスト対策で整理した内容を復習しておくこと				
15										
評価方法	(1)授業の中で小テスト(中間テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業態度・出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報				知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○				◎				40%
	小テスト	○	◎				40%			
	出席状況・授業態度				◎		20%			
履修上の注意										

科目名	ビジネスソフトウェア演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	瑠璃垣 孝一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年、情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	Wordを使用して、実務に利用できるビジネス文書や、表現力をアップする機能を使った文書(チラシ・POP等)が作成できるようになることを目指す。 また、PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的なスライド作成や資料作成ができるようになることを目指す。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Wordを用いてビジネス文書(社外文書、社内文書)を作成できる。	
		○				Wordのグラフィック機能を用いてチラシやPOPを作成できる。	
	○	○				PowerPointを用いて効果的な機能を使い発表用のスライドを作成できる。	
		○				PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 Wordの基礎知識 第2章① 文書の新規作成				第1章・第2章をよく読んでおくこと。	
	2	第2章② ビジネス文書の作成					
	3	第3章 グラフィック機能の利用				第3章を良く読んでおくこと。	
	4	第4章 表の作成 第13章① Word・Excel間のデータ共有				第4章をよく読んでおくこと。	
	5	補足 長文の作成					
	6	補足 長文の作成での便利な機能					
	7	Word総合演習					
	8	Word実技試験 第10章 PowerPointの基礎知識					
	9	第11章 ①プレゼンテーションの新規作成				第11章をよく読んでおくこと。	
	10	第11章 ②視覚的コンテンツの利用					
	11	第12章① スライドショーの実行				第12章をよく読んでおくこと。	
	12	第12章② アニメーションと画面切り替え効果					
	13	第13章② Word・PowerPoint間のデータ共有				第13章をよく読んでおくこと。	
	14	PowerPoint実技試験					
15							
評価方法	(1)Word・PowerPointの実技試験を実施する。(2)授業の中で課題を作成する。(3)出席回数、授業態度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験	◎	◎				60%
	課題作成		◎				20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	課題は毎回忘れずに提出すること。 出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							